

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》越後歩

【概要】

手外科領域のリハビリテーション（ハンドセラピー）の定義や理念を学習し、具体的評価と治療を学習する。

【学習目標】

【一般目標】

手外科領域のリハビリテーション（ハンドセラピー）に必要な解剖や疾患について学ぶ。またハンドセラピーの方法論や疾患別治療法について学習する。

【行動目標】

1. 手外科領域のリハビリテーションに必要な機能解剖を説明できる。
2. 手外科領域のリハビリテーションの評価について説明できる。
3. 手外科領域の疾患別リハビリテーション治療を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	ハンドセラピーの概略・手の機能と解剖	ハンドセラピーの概略と手の機能と解剖について学ぶ。	越後歩
2	手の機能と解剖 ・炎症性疾患のハンドセラピー	手の機能と解剖、炎症性疾患のリハビリテーションについて学ぶ。	越後歩
3	ハンドセラピーの評価	手の疾患・傷病の評価やその管理方法について学ぶ。	越後歩
4	骨折のハンドセラピー	手関節・指骨折に対するリハビリテーションについて学ぶ。	越後歩
5	腱損傷のハンドセラピー	手指屈筋腱・伸筋腱のリハビリテーションについて学ぶ。	越後歩
6	末梢神経損傷のハンドセラピー	上肢の末梢神経損傷のリハビリテーションについて学ぶ。	越後歩
7	拘縮のハンドセラピー	手・指の拘縮のリハビリテーションについて学ぶ。	越後歩
8	ハンドセラピーのスプリント療法	ハンドセラピーに使用するスプリントについて学ぶ。	越後歩

【評価方法】

定期試験100%

【備考】

参考書：齋藤慶一郎 編著 「リハ実践テクニック ハンドセラピィ」 メジカルビュー社 2014年
 青木光広 編著 「からだの機能と運動療法 上肢・体幹」 メジカルビュー社 2013年
 市橋則明 編著 「身体運動学」 メジカルビュー社 2017年

その他：上羽康夫 著 「手 その機能と解剖」 金芳堂 2014年
 中田真由美 他 著 「ハンドセラピー入門」 三輪書店 2001年

【学習の準備】

毎回授業の最初に前回の授業内容に関する復習プリントを配布するので学習しておくこと。（160分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病気やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って理学療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。